

田んぼアーケオロジ



令和6年 **10月12日(土)~11月4日(月)**

開館時間 10:00~16:00 **入場無料** 期間中無休 10月25~27日のみ休館

事情により、会期ならびに開館時間に変更になる場合がございます。
開館状況等は、ホームページにてお知らせします。

北日本考古学研究センターHP <https://human.hirosaki-u.ac.jp/kitanihon/>

会場 弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター展示室(総合教育棟2階)
〒036-8560青森県弘前市文京町1番地 Tel:0172-39-3190

主催 弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター

共催 田舎館村教育委員会

協力 東北大学文学部考古学研究室、青森県立郷土館、辰馬考古資料館



田んぼアーケオロジ

昭和31年ころ、地元の中学校教諭、工藤正氏が田舎館村垂柳遺跡で稲のモミ痕のついた土器を発見しました。これをきっかけに東北大学考古学講座の初代教授、伊東信雄博士は、昭和33年に発掘調査をおこない、土器や石斧、石鏃のほか、焼米（炭化米）約200粒を発見しました。博士は出土した土器の形態が弥生時代中期のものであることを確認し、津軽地方においてこの時期にすでに稲作がおこなわれていたと考えました。その後、昭和50年代の国道バイパス道路の建設工事に先立つ発掘調査により、今から約2000年前の弥生時代の水田跡が広い範囲にわたって検出されました。これにより伊東の学説が補強されました。さらに驚くことに、水田面には当時の足跡が残るほど、保存状態が良かったのです。また、水田稲作が営まれた時期を示す「田舎館式」と命名された弥生土器、様々な生産活動を反映する多種の石器・木製品、植物種子なども多量に出土しました。調査が進められた中で、これらの遺物は西日本からの波及だけでなく、南東北や北海道との交流を示すものも含んでいることが判明しました。このように、良好な保存状態だった600枚以上の水田遺構や、豊富な遺物を伴い、北東北への初期稲作農耕文化の様相を示す貴重な遺跡とわかった結果、垂柳遺跡は平成12年に国史跡へ指定されました。

弘前大学では、水稻農耕文化が弥生時代の早い段階で定着していたことを示した垂柳遺跡に関連する浅瀬石川流域の遺跡を、令和元年度から3か年調査してきました。そして令和4年度から田舎館村教育委員会との共同研究により、村保管の文化財の再整理に着手し、村に眠る文化財の活用化を図っています。また、各機関が保管する田舎館村出土資料を調査してきました。

いよいよ今年度、近年の成果を盛り込んだ埋蔵文化財センター展示室のリニューアルが本格化します。

そこで、本センターでは、リニューアルに先立ち、これまでの調査成果を速報します。本企画展では、垂柳遺跡が初めて学会で紹介された際の資料や、工藤正氏の発掘資料、昭和33年東北大学発掘資料など、これまで非公開だった貴重な資料をふくめ、一同が集合するのは初めてのこととなります。

展示資料・遺跡等一覧

- 学会に初めて紹介された垂柳土器図(佐藤藤画譜)
- 工藤正旧蔵 原稿・写真・手紙(伊東信雄宛ほか)
- 東北大学発掘 写真・図面・原稿・土器・炭化米
- 田舎館村保管土器、石器、土製品、石製品、文献など以上、約300点



成田彦栄氏考古資料収蔵展示室 特別公開



弘前大学文京町地区
キャンパスまでのアクセス

- JR弘前駅から
- 徒歩の場合：約20分
 - タクシーを利用する場合：約5分
 - バスを利用する場合
JR弘前駅前(中央口)【3番のりば】
「小栗山・狼森線」または「学園町線」
に乗車、【弘前大学前】